

檜原の雑木林里山へ再生

村内NPO法人 手入れ作業体験も

檜原村のNPO法人「フジの森」(清水久巳理事長)が、30年以上放置されてきた村内の雑木林「ふるさとの森」の再生を始めた。親子連れなどにも森づくりに参加して学んでもらい、進めることにしている。ふるさとの森は広さ約35畝。元は薪や炭を出す薪炭林だった。

た。セメント会社が採石場として所有していた時期もあるが、1978年に閉山し土地を檜原村に寄付。その後人の手が入らなかつたため、様々な広葉樹が生い茂った。村は人が自然を楽しめる里山に戻す事業を行うことにし、フジの森が指定管理者として実施する

ことになった。「森づくり体験プログラム」として、公募した人たちによる作業は18日から始まる。作業用の林道を設けるためにヤブを切り開くことから手を着ける。来年2月まで月1回、毎回20人程度を募集して、作業を体験してもらおうとしている。

フジの森は、村内にあるスギなどの人工林「教育の森」(2・4畝)でも村の指定管理者として、森づくりや山村生活体験のプログラムを行っている。間伐や下草刈り、キノコ栽培、薪を使った料理作りなどのメニューには、一般公募の親子連れなどが年間1000人以上参加している。

フジの森の小沢一雄理事(63)は「今回は、我々も広葉樹について学びながらの作業になるが、参加者と力を合わせていきたい」と話している。体験プログラムなどへの問い合わせは、フジの森の相沢事務局長(090・8880808・618889)へ。